

離れ雲

私は雲だ

決まった形を持たず

のんびり流れている

私は自分が好きだ

たまに他の雲を見つけて

一緒に形を作ることもある

友達なのか恋人なのか

それとも家族か

家族になれた時は

本当に嬉しかった

「おめでとう、おめでとう」と

周りから祝福される

「生まれてきてよかったなあ」

夢のような時間だ

心に虹でもかかった気分だ

改変：構成が変わらない範囲で好きに改変して読んでよい

でも…どうしてだろう…

集まるほどに歪になり

一緒にいるほど摩擦が起きる

今までの楽しさが

嘘のように暗く湿り

誰かの怒号が鳴り響き

見たくない涙が流れる

そうして、私は離れ雲になった

何がいけなかったのか…

私の何が悪かったのか…

一人ぼっちで流されながら

次は失敗しないよう

一生懸命考えた

でも上手くはいかなかった

仲間を見つけても

まるで磁石のように

近づけば衝突してしまい

歩み寄っても距離を取られる

どうやっても上手くいかない

悲しくて下を向いた

足元の川には花筏が流れていた

楽しそうに賑わって…

嬉しそうに身を寄せて…

「いいなあ…」

「羨ましいなあ…」

気づけば涙がこぼれている

「なぜ私は…」

あんな風にはなれないんだろう…」

私は自分が嫌いになった

このまま一人で

誰にも必要とされず

流されて消えていくのを

待つだけだった

強い風が吹いてきた…

私のような離れ雲など

吹き消してしまえるほどの…

「ああ…終わりか…」

楽しかった思い出がよぎる

あの時の心の虹は

ただの幻だったんだらうか…

生まれ変わったら

あの花筏みたいになりたいな…

「大丈夫？しっかりして！」

私より少し大きい離れ雲が

肩を貸してくれた

ふと見渡せば、たくさんの離れ雲が

私の無事を見守ってくれていた

「そうか…気づかなかっただけだったんだ…」

私は一人じゃなかったんだ…」

離れ雲/NAYU

改変：構成が変わらない範囲で好きに改変して読んでよい

延々と続く離れ雲

それはまるで白い花筏のようだった

私は雲だ

決まった形を持たず

のんびり流れている

私は自分が好きだ